

日時：2025年10月21日（火）午前

場所：広島大学ミライクリエ会議室

研修内容：日本の教育について・Introduction to Education in Japan

概要：

講義は、スライドの投影とプリント配付を基本としながら、講師から参加者への一方的な形式に留まりませんでした。講義の途中でも参加者から活発な質疑応答が交わされ、常に全体を巻き込んだ議論が展開される場となりました。

特に、参加者の多様な出身国という背景が、議論を一層豊かなものにしていました。各国の教育制度と比較しながら意見交換を行うことで、日本の教育が持つ独自の特徴や課題が浮き彫りになっていったのが印象的です。

所感

今回の講義は、参加者が主体的に関わることで、単なる知識の伝達に終わらない、多角的な視点からの深い学び合いの場が形成されていました。参加者一人ひとりが自身の疑問や意見を発言することが、議論全体の活性化を促し、テーマへの理解を深める上で効果的だと感じました。

また、休憩時間では、多くの参加者が飲み物を片手に交流を楽しんでいました。



日時：2025年10月21日（火）午後

場所：ミライクリエ

研修内容：カントリーレポート

概要：

今回のカントリーレポートセッションでは、アジア、太平洋地域を中心とする各国の教育教科システムや教員等の人材育成の取り組みが紹介された。いずれの国も、教育の質向上と公平なアクセスの確保を主な課題としており、社会経済的背景やインフラ整備の格差、教育資金の持続性といった共通の問題に直面していることが明らかになった。

多くの国では、教師の専門性向上を教育改革の中心に添えているように思われた。これは、生徒の学習成果の改善を教師の力量に直結するものとする視点に基づいているのだろう。大規模なプロジェクトが各国で行われているが、この鳥雲の継続性や、持続性硬化をどのようにして担保するかといった質問が、参加者から多く挙げられていた。特に、都市と農村における教育格差、ICTの導入状況、インクルーシブ教育の推進の領域では、制度整備と人材確保の両面ですらに取り組みが必要であると述べられていた。

また、教育と社会、経済構造との関係性も重要なテーマとして挙げられていた。農村を中心に、食料確保のための児童労働、早婚といった社会要因が教育継続を妨げている状況が報告された。ラオスからの参加者の発表では、教育を将来への投資として地域社会に浸透させるための、家庭や地域の意識改革が不可欠であることが強調された。

総じて、今回のカントリーレポートでは、単なる就学率向上にとどまらず、誰もが安全で質の高い教育継続的に継続的にアクセスできる環境が重視されているように感じた。今回のカントリーレポートでは、参加者同士の活発な質疑応答を通して、自身の理解を深めようとしたり、自国の状況と重ねながら意見を述べたりする参加者もあり、非常に有意義な時間となった。私自身も、教育を学ぶ立場として、各国の教育の現状を知ることができたのは非常に良い経験となり、英語で議論が交わされる場は刺激的であった。

